

発行人 / 学園町自治会会長・人見良一  
 投稿・連絡先 / 学園町2丁目8番地14号  
 電話・FAX / 421-2336  
 企画編集 / 学園町自治会広報委員会  
 編集長 / 浜名純

# 学園町 かわら版

102号

購読無料・各戸配布 / 隔月刊行

毎月の第1・第3・第5月曜日は  
 学園町自治会の資源物回収の日。  
 自治会の収益となりますので、  
 ぜひご協力ください。

## 「地域の中で育つ子ども」を目標に 地域と学校の連携を深めたい 若澤直樹・南中新校長に聞く

今春、東久留米市立南中学校の校長に若澤直樹氏(59)が就任しました。「10年後、20年後のまちづくりを担うのは、今の中学生だ」をモットーに、学園町をはじめ地域との連携を積極的に推進していきたい、と抱負を語ってくれました。

——経歴をお教えてください。

若澤 1964(昭和39)年、東京オリンピックの年に茨城県日立市で生まれました。サラリーマンの父と専業主婦の母の長男で、高校3年生までは日立で過ごし、大学は東京学芸大学の教育学部に入りました。小学校の理科の課程でしたが、小中高校の免許を取って採用試験を受け、1986年に立川市の第七中学校に赴任したのが教員生活のスタートです。横田基地のすぐ横の学校で、そこで6年。次に武蔵村山第四中学校に3年、その後は、練馬区の旭丘中学校をはじめ練馬区内の中学に勤務しました。光が丘第三中学校と中村中学校で副校長を務め、2018(平成30)年に東久留米市大門中学校の校長になりました。そこに5年ほどいて、今年4月に南中に移りました。

——なぜ教職を取るための大学に入り、先生になったのでしょうか。

若澤 教員になりたいと強く思っていたわけではないのです。高校でバンドをやっていました。田舎にはライブハウスなんて無いですし、プロのミュージシャンになりたいと東京に出てきたのです。大学の外の仲間とバンドを作っ

てライブハウスに出たりして、21歳くらいまで過ごしていたのですが、大学3年生で小学校に教育実習に行つて初めて「教員っていいな」と思つたのです。未来につながる希望がある仕事だな、と感じました。大学4年でまた教育実習に行き、教員になりたいという気持ちが高まりました。

——30数年間の教員生活で、印象に残っていることや、エピソードなどはありますか。

若澤 理科の授業で実験をすると「何でそうなるの?」とみんな関心をもつんですよ。僕の理科の授業は「理科を好きになつてもらいたい」というのが一番のメインテーマ。理由を考えて「なるほろ」と納得したり「何でだろう」と思ったりすることの連続が理科の面白いところだし、世の中に出てから子どもたちの人生に役立つことだと思つているので、それを一生懸命やってきて、ほとんどの子どもが「理科は好きだよ」と言ってくる



れたことを誇りに思っています。理科の教育・授業で一番気をつけたことは、一つは安全。どうしても色々な器具や薬品を使ったりしますから。もう一つは、面白くなくなったらダメだということ。理科はつまらない」と思わせないように常に気を使って授業を組み立てていました。

——そういえば東日本大震災の時は、3年生の卒業前の校外学習で生徒をお台場の方に連れて行っていたのです。四季劇場でライオンキングを見ていた時に揺れが来て「建物の中は危ないから避難してください」ということで逃げました。日帰りの行事だったので帰れなくなって生徒と一泊しました。すぐ近くに都立芝商業高校があり、この一室を使わせてもらいました。

——理科の授業以外に、生徒さんの指導ではどのようなことに気をつけてきましたか。

若澤 生徒は今何を考えているのか、何に困っているのか、何を面白いと思っているのか、ということもいつも考えていました。「何でこの子はこんなことを思つてこういう言い方をするのだろう」と。気分で言っているのかもしれないが、その気分を作っているバックボーンがあるはず。それを考えながら接していました。

——保護者に関して気をつけていることはありますか。

若澤 保護者の方が一番に願うことは自分の子どもの幸せだと思うのですが、時に保護者の方はちょっと先の幸せまでしか見えていないことがあるのではないのでしょうか。でも10年後20年後、親御さんが年齢を重ねた時に一人歩いているのは子どもだから、その時の子どもの幸せを考えなくてはいけない、と私は思っています。ですから、子どもたちが自分の力で幸せになれるような力をつけてあげる、というのが僕らの仕事だと思います。でも、保護者は中学3年生の受験のことが気がかりなのは当然です。

——そこで、「ゆつくりと子どもたちの20年先の幸せを一緒に考えましょう」というスタンスでいきたいと考えています。

——南中ではこんなことをしたいという抱負をお聞かせください。

若澤 地域との関わりを大切にすること、地域連携に力を入れたいと思っています。今年度と来年度、地域連携の研究推進校になりました。地域や外部人材を活用して、教育活動がさらに良くなるようにしましょう、というものです。(次ページに続く)



## 「住まいのまちなみ優秀賞」受賞 自治会有志が表彰式に参加しました

ここはそういう歴史を持つている地域だと思っんですよ。地域の方にいろいろお願いしたいこともあるし、学校にも入ってきてもらって子どもたちの教育をより豊かにしていくことができると思うんです。この間は東村山の全生園・ハンセン病資料館の方に来てもらって3年生に授業をしてもらいました。

今度修学旅行で京都・奈良に行

きます。「素敵な町だったね」と言って帰ってくるだけでなく、では自分たちの町はどうなの？というのを勉強することをテーマにしています。この周辺をもっと素敵な町にするためには何ができるかという発表会をやる計画です。ぜひ皆さんにも見に来てもらいたいですね。

——学園町も開発が進み、どうやって環境を守っていくかが課題

題になっっているんで、ぜひ南中の生徒さんの発表をお聞きしたいと思っいます。

若澤 中学生には、「地域の人も聞いてくれるからね。君たちが考えていることは無駄じゃない。だってあと10年20年たったら君たちがこの町を作るんだよ」と話したいですね。そういう地域連携にしたいなと希望しています。

学園町は、羽仁もと子・吉一夫妻

が学園を作るためにその周りの土地を分譲したということを読みました。そういう志が今も生きている町なんだと思っいます。子どもたちは、地域の人と関わることによって伸びていくのです。「地域の中で育つ子ども」ということを大切にしたいと思っいます。地域の方と何かコラボしてできることを探しています。それが今、南中が目指しているものです。

「第18回住まいのまちなみコンクール」(主催・まちづくり月間全国的行事実行委員会、住宅生産振興財団、すまいづくりまちづくりセンター連合会)の表彰式が、7月14日、東京千代田区のアルカディア市ヶ谷(私学会館)で開かれました。さまざまな社会課題に対応しながら、まちの価値を守り育て、住み継いでいくには何が必要かを考えながら、地域の特性を生かし、魅力的なまちなみを育むための維持管理・運営など

に取り組む住民組織を表彰しようというもので、「住まいのまちなみ優秀賞」を受賞した学園町自治会からは、荻野晶子さん、岡田正意さん、浜名純さんの3名の役員が出席し、主催者から荻野さんに表彰状が授与されました。

表彰式に次いで、総会、懇親会が開かれ、受賞した各団体の活動報告と大月敏雄審査委員長の講評がありました。大月委員長は、「学園町は、自由学園が豊島区からこの地に移転し、まちの開発を行ってきてところです。それから約100年が経ちましたが、自由学園の精神に共鳴した住民を中心に武蔵野のよさを残すまちなみが維持されてきました。また、自由学園の校舎(現在の明日館)は建築家フランク・ロイド・ライトとその弟子遠藤新が設計したことでも

知られており、学園町には遠藤新楽親子が設計した住宅が多く残っています。しかし、近年屋敷の細分化が進んだため、2008年に学園町憲章が制定されました。自由学園の元学生寮を拠点とした食堂、子育て支援の活動が展開され、まちづくりの新たな気運が高まっています」と講評しました。

また、東京都市大学の坂井文教授が、「公共空間と景観」と題して講演しました。

懇親会では、まちづくりに携わる全国の多くの団体と交流。「へえ？学校の思想が町づくりに影響しているんですか」という質問をされ、逆にこちらが驚く場面もありました。また、「町づくりは市場経済の中で考え、実行していかなくてはならない」「行政は頼りにならない。自分たちで切り拓いていかねばならない」ということも感じさせてくれた貴重な時間でした。

また、6月には全住民を対象に緑ヶ丘幼稚園の跡地利用についてなどのアンケートを実施しました。ワークショップで出た住民の声やアンケート調査の結果は、次号に掲載する予定です。なお、自治会では、7月22日に自由学園側とアンケートの途中経過を話し合いを持ちました。今後も関係する組織や団体に皆さんの意向を踏まえた提案をしていく方針です。

まちづくり  
ワークショップと  
アンケート調査  
の実施

「学園町まちづくりワークショップ」が、5月28日(日)、自由学園しのため茶寮2階で開催されました。総会終了後の午前11時から、自治会の会員以外の方々も含め40人が参加して、学園町の未来について語りあうとともに、緑ヶ丘幼稚園の活用方法についてアイデアなどが寄せられました。ポストイットセッションでは、「学園町に住んでいて好きなところ」「学園町に住んでいて困るところ」「緑ヶ丘幼稚園の活用への期待」「ご自身が町のためにできること/やりたいこと」の4つのテーマから選んでそれぞれの思いを発言しました。

# 子ども食堂&貸しスペース

## JASMIN Co-Works

みなさん。学園通りをひばりヶ丘駅に向かう途中の右側にある「JASMIN Co-Works」(通称ジャスミン)をご存じですか?今年1月にオープンしましたが、どんな活動をしているのでしょうか。代表の渡辺涼代さんを訪ねました。

JASMINとは、自由のJ、アクションのA、ソーシャルのS、マイノリティのMIN。

きっかけは2020年、渡辺さんの息子さんが在籍する自由学園の生徒有志が池袋駅周辺公園で路上生活者のための夜回り活動体験参加を始めた頃、更科幸一先生(現・副学園長)の、『大人である私たちも行動しましょう。子どもたちのロールモデルになりましょう』という呼びかけに応じて、渡辺さん自身が池袋公園の炊き出し活動に参加したことです。「コロナ禍の真っ只中、1食を得ようと炊き出しに並んでいた行列は300人を超えていて、衝撃を受けました」と渡辺さん。



渡辺涼代さん



渡辺さんは、自身がシングルマザーであることやアメリカで暮らしたことで、社会的少数派に陥ることによる生きづらさを経験してきたため、その行列に並んでいる方々を身近に感じたそうです。そして志を同じくする仲間と同年9月、ジャスミンを結成しました。

どんな活動をすればいいのかとさまざまなNPOに見学や体験を繰り返しました。そして、調布市にある「青少年の居場所Kids」代表理事白旗真生さんのアドバイスをきっかけに子ども食堂を立ち上げる事になりました。

ひばりが丘グレイス教会(西東京市)が快く会場を提供してくれましたが、コロナ禍のため食堂開催は難しく、困窮家庭への援助と、フードロスをなくすことを目的にした「フードパントリー」を月一

回開催することになりました。

フードパントリーというのは、食材を持ち帰ってもらうスタイルですが、やはり子ども食堂をやりたいと探していたところ、ジャスミンのメンバーの豊富さんが現店舗を貸してくれることになりました。白旗さんからいただいたアドバイスの中に『一つの決まった場所の決まった時間にそこに行けば会える、と思ってもらえるような拠点が必要』というものがあり、とうとうその『拠点』を手に入れることができたのです。

現在、ジャスミンでは毎週水曜日に子ども食堂「ひばりが丘スープリキッチン」を開催、そして、新たに育児や仕事に奮闘する女性を応援するプロジェクト「女性と子どもの食堂」をスタートしています(第二日曜開催)。

また、非営利活動を支えるための貸スペース事業や、地球人として英語で話すトレーニングなどの営利事業も行っています。今後はさらに、週末限定の雑穀プレートを提供をプラスしたワークショップや研修なども企画しています。

趣味や特技を生かしたワークショップやグループセミナーを開催したい人、ソーシャルプロジェクトのミーティングに使いたい人、いつか事業をスタートしたいと考えている人、動画撮影や収録で使いたい人、週末など空いた時間で副業を考えている人、家とは別に作業や仕事をする居場所を探

している人:そんな方はぜひご利用くださいと渡辺さんは呼びかけています。

・場所 西東京市ひばりが丘1-4-27  
 ・利用時間 6時~23時、不

定休あり。080-4608-3609  
 ・貸切レンタルスペース1時間3千円(3時間以上35%オフ)  
 ・フリータイムシェアスペース1時間500円

**花だより③**  
**偏見や規制概念を破って**  
**きれいな花を飾りたい**  
**立川まり**

今年の夏はますます暑く、庭の草花もすぐにぐったりとしてしまします。植える花も限られてきて秋が待ち遠しく感じます。

最近、かすみ草の花束のご注文をよくいただくようになりました。もちろん「かすみ草の花束」という商品の販売を始めたからなのですが。



実はかすみ草に偏見がある花屋さんはいませんか?偏見というところが大きいです。昔は花束といえば必ずかすみ草、みなどころがあったので、お洒落でちょっと人と違ったアレンジをと思う花屋さんにはもうダメ、みたいな(笑)

ファッションでも昔流行ったものが再度流行るようなことがあります。その時代を知らない人にとっては新鮮に可愛い花、と見えるようです。

これは他の花でも同じで、例えばスターチスは、私にとっては花に入れる花というイメージがあつたのですが、今はドライフラワーにするなど人気があります。

また、菊は今はお洒落な色や形のものがたくさん出ていて、海外では普通に花束に使われていますが、日本では、菊は仏花というイメージが強いので、お祝いの花束などに入れるのは躊躇われます。習慣や偏見をなくして、きれいなものはきれいと飾れるようになると思います。

(フローラルライフ)立川

042-423-8646

かわら版を配達してくれています!  
NPO「武蔵野の里」の  
「くるめパソコン」です。

みなさん、「くるめパソコン作業所」をご存じでしょうか。昨年10月から自由学園の生徒さんに替わって、「学園町かわら版」をみなさんのお手元に届けてくれています。どんなことをしているところなのか、ご紹介しましょう。

くるめパソコン作業所は、「特定非営利活動法人・武蔵野の里」が運営する作業所です。精神障がい者が、各自の持っている力を発揮してよい仕事や活動が行えるようになること、そして、障がいのある人もない人も共に生きられる地域社会の実現に寄与することを目指して、1996年に東久留米市本町に開設されました。

現在、「武蔵野の里」では、くるめパソコン作業所のほかに、障がいの支援に関するさまざまな相談にのる「相談支援センター武蔵野の里」、食事作りや陶芸、リサイクルショップや喫茶の作業を行う「ぶどうの里」、共同生活の可能な精神障がい者を対象に3年を



かけて単身生活ができるように訓練をする「グループホーム」を運営しています。

くるめパソコン作業所は、設立時の場所から移転し、現在は東久留米市氷川台の氷川台班と大門町のアート&ワーク班、東本町の労テック班に分かれています。氷川台班とアート&ワーク班は、就労継続支援B型に属しています。これは、一般企業などに就職が難しい障がいや難病を抱えている方に働き場所を提供することを目的とした施設です。ちなみに、労テック班は、2年間を目標に就職に挑戦する就労移行支援を行っています。さて、学園町かわら版を配布してくれているのは、氷川台班です。氷川台班では、パンフレットや案内状などの封入、発送、宛名書きをはじめ、ポスティングや切手の仕分け、会報の印刷、パソコンに

よる文書の入力、内部事務作業など多岐にわたる請負業務を行っています。現在、近隣の市町村の18名が登録しており、毎日10名前後が通所しています。かわら版を配布してくれているのが職員の川亦夏樹さん(写真右)と土田史郎さん。それに通所の方も手伝いしてくれています。「配達していると、住民の方がよく声をかけてくれます。いつも楽しみにしていますよ、と言われ励みになっています」と語ってくれました。

責任者の樋口昇子さんは、「皆さんが安心して通い、楽しく過ごしてくれることをモットーにしています。ここでの作業が生きがいになり、将来の就職にもつながるようになればいいなと願っています」と話しています。

自治会資源集回収

8月21日・9月4日/18日・10月2日/16日(第1・3・5月曜日)  
・アルミ缶/新聞紙/ダンボール/雑誌・本/古紙/古着・布  
・それぞれに分別して朝8時半までに出してください。  
・古着・布は雨天時は出さないでください。  
・自治会の収益となりますので、ぜひご協力ください。

お知らせ



【しのめ朝市】  
8月13日・9月10日・10月8日(毎月第2日曜日)朝10時から場所:しのめ茶寮 前庭  
地元で取れた新鮮野菜の無人販売です。小銭をご用意ください。

【南部地域センター】  
※問合せは南部地域センター(指定管理者(株)セイウン)  
TEL: 042-451-2021  
e-mail: Higashikurume\_nanbu@s-seiun.co.jp

【ヨガ教室関連】  
①「ヨガ男塾！」(金曜日)  
・8月18日・9月1日・9月8日・9月15日・9月29日・10月6日 19:00~20:00  
・講習室1・参加費:700円  
②「日曜ヨガ教室」(日曜日)

・8月20日・9月3日・9月17日・1部 10:00~10:45・2部 12:30~13:15  
・参加費:500円  
③「健康体操」(日曜日)  
・8月20日・9月3日・9月17日・1部 11:15~12:00・2部 13:45~14:30  
・参加費:500円  
①~③ 講師:中村陽子氏  
④「アンチエイジングヨガ」(日曜日)  
・8月27日・9月10日・24日・10月8日・1部 10:00~10:45・2部 11:15~12:00  
・参加費:500円  
講師:AZUSA  
①~④共通・持ち物:動きやすい服装・タオル・飲み物・ヨガマット等

【ヨガ教室以外のイベント】  
★「ベビーマッサージ」  
・9月11日(月) 10:00~12:00和室1・2  
・参加費:2000円  
・生後2か月~1歳前後の赤ちゃんとママさん・妊婦さん  
・講師:飯岡祐子  
★「バクさんとその仲間と♪音楽と」  
・8月27日(日)・9月24日(日)開演 13:30~

・講習室・参加費:500円  
★「60歳からの音楽で脳トレ体操」  
・8月28日(月)・9月25日(月) 10:15~11:30  
講習室1  
・参加費 1000円(当日払)

★「妊婦さんとママのための〜こころとからだのセルフケアレッスン〜」  
・9月25日(月)10:00~11:30 和室・参加費:500円  
・講師:ひばり maman

★「なんぶ おしゃべりサロン」  
・9月3日(日)・10月1日(日) 13:30~15:30 音楽室  
・参加費 100円

【自由学園】  
※各催しの詳細は自由学園のHPに掲載しております。申込はHPからお願いします。  
※問合せは自由学園広報本部  
TEL:042-428-2123  
e-mail: kh@jiyu.ac.jp  
URL: https://www.jiyu.ac.jp  
■ハンガーゼロチャリティー

コンサート  
8月19日(土) 14:00開演・会場:自由学園記念講堂・料金:無料(席上献金があります) 事前予約不要・未就学児大歓迎

■自由学園幼児生活団幼稚園【夕涼み会】8月25日(金)・1部 16:30~17:00・2部 17:15~17:45  
【入園説明会】9月9日(土) 10:00~11:00  
【体験会】9月20日(水) 10:00~11:00

■自由学園初等部【夕涼み会】8月26日(土) 16:00~18:00 対象:幼児~小学2年生  
【入試説明会】9月16日(土) 9:30~11:00

■自由学園男子部・女子部【校長と一緒に学ぼう】  
・9月9日(土)夜の開催  
・9月10日(日)朝の開催

■オンラインダイアログ「自ら『勉強』し続ける子どもを育てるには?」  
9月25日(月) 20:00~21:00・ゲスト:岩田かおり氏  
形式:Youtubeliv 配信